

第3回 江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会 資料

1. 江別市立病院の沿革 P2～P12
2. 江別市における患者流出状況(地区別・年齢別・疾患別) P13～P39
3. 江別市における将来患者推計(年齢階級別 疾患毎) P40～P63
4. 江別市における将来患者伸び率と患者流出率 P64～P67
5. 近隣急性期病院の状況 P68～P84
6. 地域医療構想の実現に向けた具体的対応方針の再検証要請について P85～P97

2019/10/28

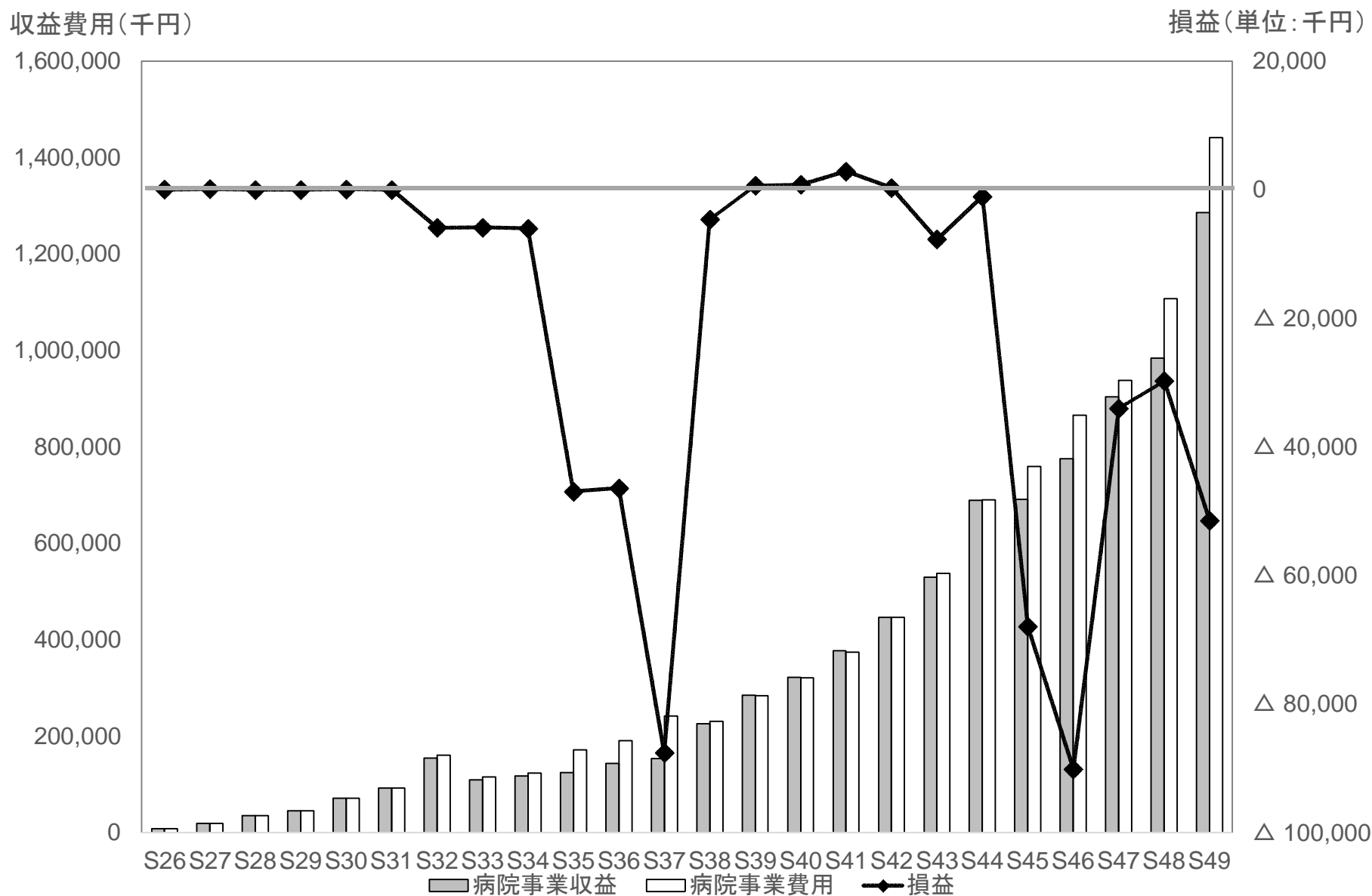
1. 江別市立病院の沿革

参考)市立江別病院二十年史(編集:市立江別総合病院、新江別市史(編集:江別市総務部、発行:江別市)

江別市立病院の沿革①—黎明期から拡張期—

年代	出来事	人口	医療機関
昭和20年度	○国立札幌病院付属江別診療所を誘致 内科・小児科・耳鼻科 20床 ⇒施設の貧弱さその他の理由から経営不振となる。	昭和25年 31,647人	昭和25年 病院 1 診療所 9
昭和26年度	○江別町立病院を開院（第1期病院建設時代） 4か年計画で、約1億600万円を投じ、一般病棟、結核病棟、 隔離病棟などを新築、病床数216床、診療科目7科		
昭和30年度 ～38年度	○第2期病院建設時代（総合病院への整備） 霊安解剖室の建設、精神病棟の新築・増築、病院内の増改 築、医師住宅の新築 ○「総合病院」へと名称変更	昭和35年 37,396人	昭和35年 病院 3 診療所12
昭和41年度 ～44年度	○第3期病院建設時代（近代医療への脱皮） 病院整備計画（議会承認）に基づき、増改築工事を実施		
昭和46年度	○病床数 一般 220床、結核 60床、精神 205床、伝染 15床 合計500床 ○診療科目 14科 内科、精神神経科、呼吸器科、小児科、外科、整形外科、 皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、理学療法科、 放射線科、麻酔科、歯科	昭和45年 63,762人	昭和45年 病院 4 診療所30
昭和49年度	○累積赤字が6億3千万円⇒改善の必要性が一気に表面化 ○不良債務解消のため「特例債制度」を活用（277,400千円） 【全国的に自治体病院の経営悪化】 ①診療報酬の不適正および改定の遅延、②自治体病院の使命 に基づく経費の増嵩、③医師不足および人件費の増嵩、④病 院の配置および規模の不適正		

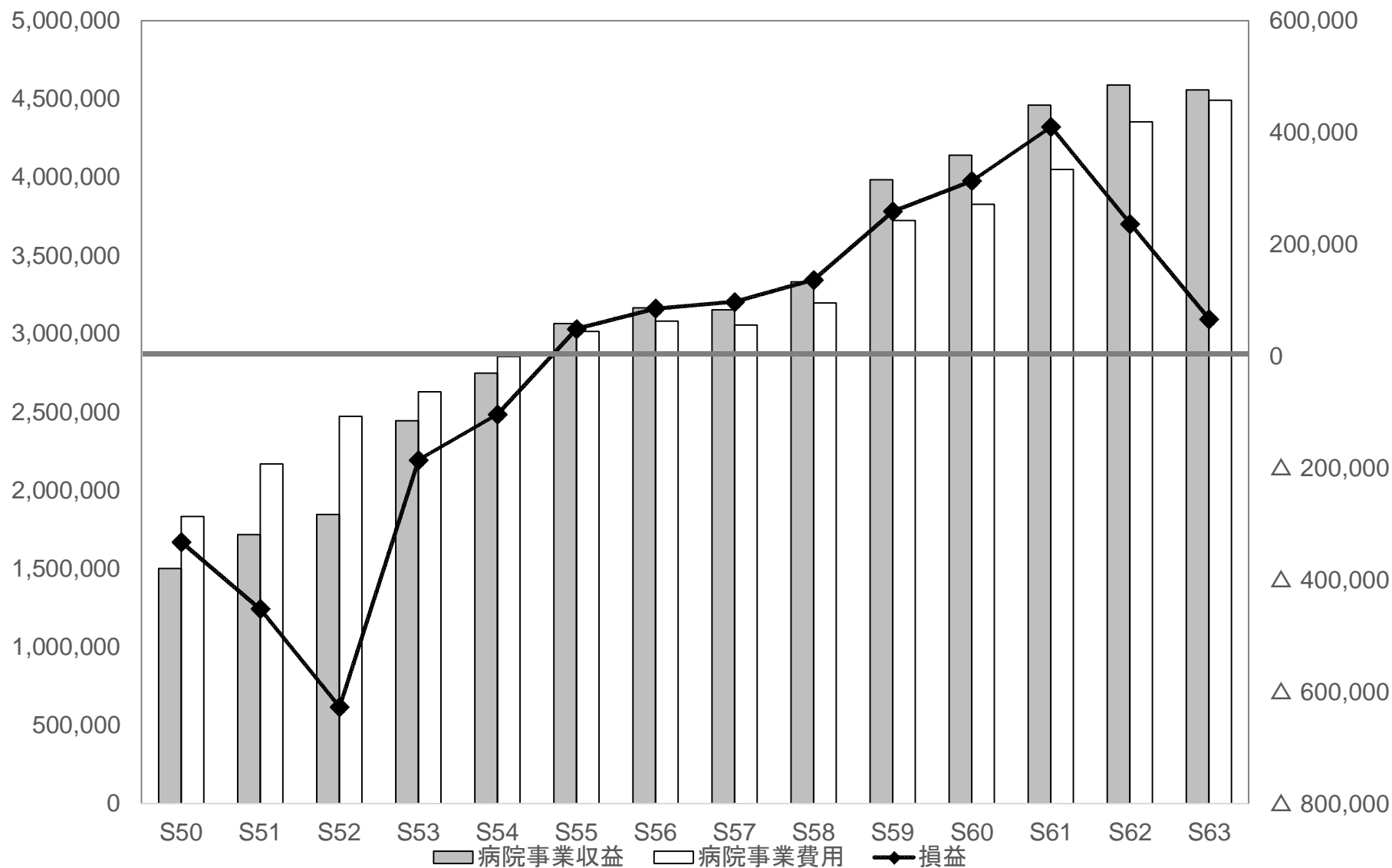
江別市立病院の沿革②－病院事業収益費用の推移(昭和26年度～昭和49年度)



江別市立病院の沿革③－準用再建団体の時代－

年代	出来事	人口	医療機関
昭和51年度 昭和53年度 昭和55年度	<p>○市立江別総合病院運営審議会に対し、市立病院が担うべき役割と効果的運営の方途について諮問、答申を得る</p> <p>○自治医科大学一条教授による経営診断 ⇒財政再建基本方針（昭和53年度から3年間）を決定するも再建の歩みは進まず。</p> <p>○結核病棟（60床）の廃止、高等看護学院の廃止</p> <p>○市議会「病院再建特別対策委員会」を設置</p> <p>○昭和56年2月臨時市議会で準用団体の指定による財政再建計画が承認（翌月自治省の許諾） ＜計画の内容：拡大再生産方式＞ 外来棟の新築と病棟の増築、老人病床の増床や重症患者の集中治療室（ICU）の設置、夜間急病診療所の併設、泌尿器科や眼科の常設 ※市立病院職員30人減員、市長部局を含む職員給与の減額是正や昇給延伸などの措置をあわせて実施</p>	昭和55年 86,349人	昭和55年 病院3 診療所39
昭和59年度 昭和61年度	<p>○老人病床50床を増床 病床数 一般278床、精神205床、伝染20床 合計503床</p> <p>○準用財政再建計画終了 累積赤字 22億4千万円（昭和55年度）⇒9億3千万円 不良債務 18億6千万円（昭和55年度）⇒解消 ○市議会で病院再建対策特別委員会を廃止</p>	昭和63年 92,589人	昭和63年 病院5 診療所41

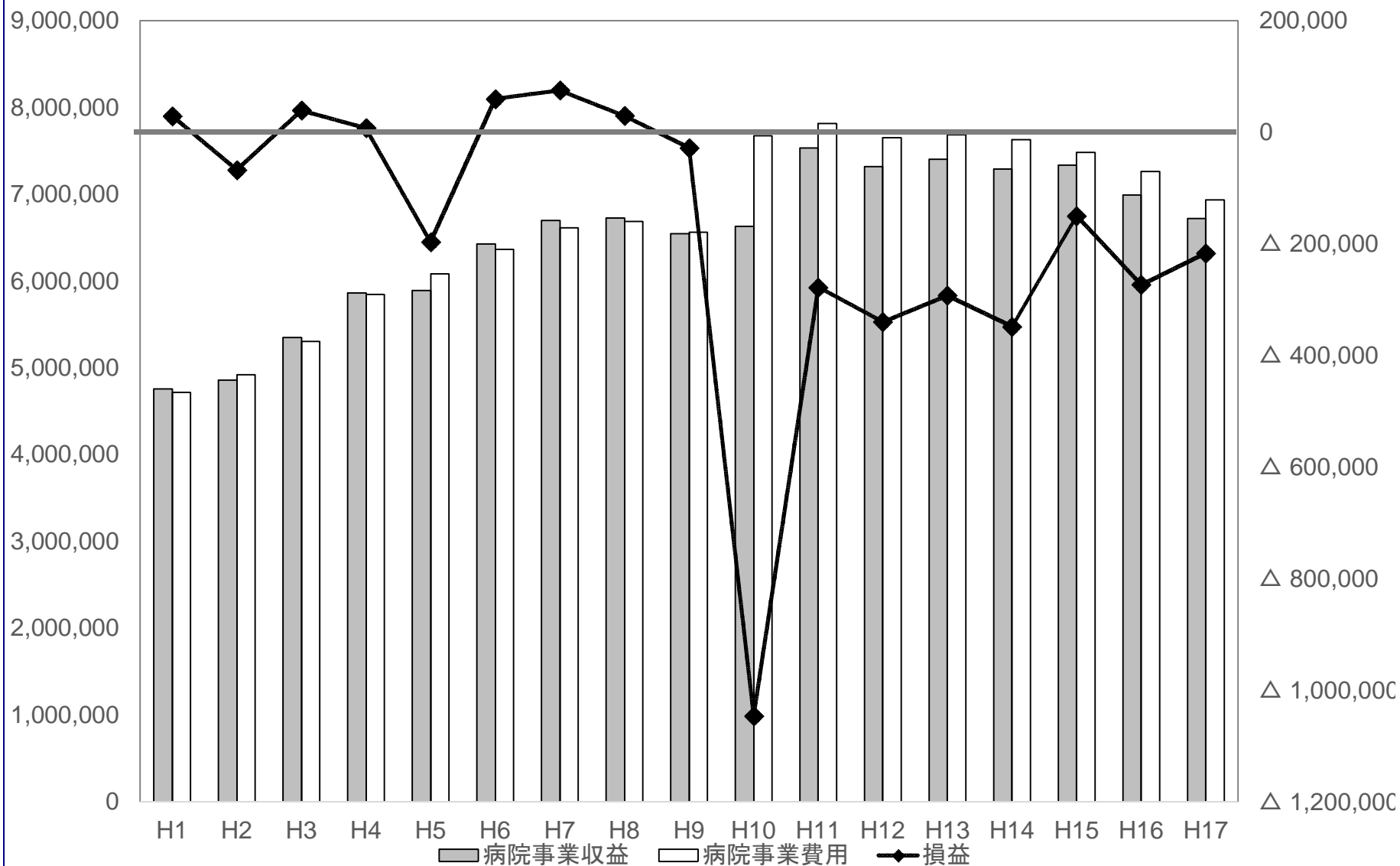
江別市立病院の沿革④－病院事業費用収益の推移(昭和50年度～昭和63年度)



江別市立病院の沿革⑤

年代	出来事	人口	医療機関
平成3年度 平成10年度	<ul style="list-style-type: none"> ○市からの長期借入金（3億1千万円）を完済 ○江別市立病院開院 <ul style="list-style-type: none"> ・病床数（合計408床） 一般 278床 精神 130床 ・診療科目（合計17科） 内科、精神科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科 	平成10年 120,455人	平成10年 病院 5 診療所47
平成11年度	<ul style="list-style-type: none"> ○累積欠損金17億3千万、内部留保資金6億7千万円 ○1日平均外来患者数が1,500人を突破 【内科系医師の多忙化】 <ul style="list-style-type: none"> ・内科の専門分化に伴い、各科が少人数の体制になり繁忙を極める ・内科医が病院併設型夜間急病診療所の問題点を訴え、市立病院からの切り離しを要請するも実施が遅れる ・内科系医師の派遣については、北大に依存 		
平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> ◆新臨床研修医制度必修化 <ul style="list-style-type: none"> ⇒研修医の多くが研修システムの確立した民間病院を選択し、大学病院（医局）に残る研修医が激減 		
平成17年度	<ul style="list-style-type: none"> ○第6代院長退職（平成9年4月～平成18年3月） ○累積欠損金36億3千万円、内部留保資金10億円 <ul style="list-style-type: none"> ⇒新病院建築により減価償却費の負担が増したため、累積欠損金は増加していたが、内部留保資金は確保 		

江別市立病院の沿革⑥病院事業費用収益の推移(平成元年度～平成17年度)



江別市立病院の沿革⑦—内科医一斉退職による経営危機(平成18年度の動き)—

年月	出来事
平成18年4月	○後任の院長が決まらず、小児科主任部長が院長代行に就任
平成18年6月	○消化器科医師全員退職(4名)
平成18年8月	○東5病棟休止 ○産婦人科医師1名退職
平成18年9月	○内科系医師全員退職(7名)、神経内科・皮膚科医師退職 ○西5病棟休止
平成18年10月	○精神科1病床(130床⇒59床)に縮小し、作業療法室等に改修 ○夜間急病診療所を院外に移転(市直営に変更)
平成18年11月	○内科固定医師1名採用、産婦人科非常勤医師1名退職(常勤医師1名となる) ○院長代行が第7代院長に就任 ○江別市立病院あり方検討委員会発足
平成18年12月	○医師の定着と確保の可能性に向けた給与面での処遇改善を実施 ○社団法人地域医療振興協会より支援医師の派遣を受ける(出張医)
平成19年1月	○内科固定医師1名採用(内科2名体制へ)
平成19年2月	○江別市立病院あり方検討委員会答申 <ul style="list-style-type: none"> ・市立病院は地域におけるセンター病院として専門的な医療を提供すべき。 ・市立病院は、入院を要する高度な医療機能を果たすべき。 ・当面の緊急課題として、内科医師を確保するためにあらゆる可能性を模索すべき。 (医療の専門性を確保する観点からは、大学からの医師派遣を基本とすべき)
平成19年3月	○市立病院に関する市民説明会開催(市民約160名参加) ○平成18年度決算で不良債務発生(46,464千円)

江別市立病院の沿革⑧—経営再建の道のり(総合内科医を育てる病院を目指して)—

年月	出来事
平成19年 4 月	○北海道より内科常勤医 2 名の派遣を受ける（副院長、常勤医師＜自治医大出身＞）。
平成19年 5 月	○消化器科常勤医師 1 名を加え内科医 5 名体制、産婦人科医師不在となる。
平成19年 8 月	○西 3 病棟（産婦人科系病棟）を休止し、西 5 病棟（内科系病棟）を再開
平成19年11月	○地域医療振興協会から 1 名の消化器科常勤医の派遣を受ける
平成20年 3 月	○札幌医大から 1 名の常勤医師の派遣を受ける（総合内科指導医）
平成20年 4 月	○平成19年度決算で不良債務拡大（838,239千円）
	○「総合内科」を院内標榜
	○東 5 病棟再開（内科常勤医10名体制）
平成20年 5 月	○公的病院に総合内科医師の派遣を開始（市立美唄病院、岩内協会病院など）
平成20年 6 月	○市立病院経営健全化評価委員会設置
平成20年10月	○民間委託による 24 時間院内保育所の運営開始（医師・看護師の勤務環境整備）
平成21年 3 月	○公立病院特例債借入（平成21年 3 月31日 838,200千円）⇒不良債務を一部解消
平成21年 4 月	○西 3 病棟再開（産婦人科医 2 名体制）
平成22年 5 月	○総合内科医教育センター設置
平成22年10月	○総合内科医養成研修センターに指定される（指定期間：平成22年10月～平成26年3月）
平成24年 3 月	○「江別市・栗山町の地域医療に関する協定書」締結
平成25年 4 月	○医師43名体制（内科系医師20名体制）
平成25年 8 月	○札幌医科大学「北の地域医療を支える総合診療医養成プラン」の研究教育拠点となる。
平成26年 3 月	○「江別市・南幌町の地域医療連携に関する協定書」締結

江別市立病院の沿革⑨—再び経営危機へ—

年月	出来事
平成26年 5 月	◆一般社団法人日本専門医機構設立⇒大学でも総合診療専門医を育成する動き
平成27年 2 月	○院内情報システム（電子カルテ等）の稼働開始
平成28年 3 月	○一般会計から長期貸付金 7 億 5 千万円を借入れ（公立病院特例償還のため）
平成28年 4 月	○D P C（医療費包括評価方式）に基づく入院医療費計算開始
平成28年 5 月	○地域包括ケア病棟運用開始 ⇒D P C制度及び地域包括ケア病棟を導入し、医療の質の向上とともに、経営の改善を目指す（ジェネリック薬品の導入など）
平成28年 9 月	○総合内科医教育センター長退職（初代）
平成29年 3 月	○総合内科医教育センター長退職（4 月以降、副院長が事務取扱）
平成29年 6 月	○市議会において市立病院・地域医療検討特別委員会を設置
平成29年10月	○院長代理設置
平成30年 3 月	○第 7 代院長退職 ○総合内科後期研修医全員退職
平成30年 4 月	○第 8 代院長就任 ◆新専門医制度開始
平成30年 5 月	○患者支援センターを設置
平成30年10月	○東 3 病棟休止（50床）
平成31年 1 月	○江別市立病院シンポジウムを開催（参加者129名）
平成31年 3 月	○市議会において市立病院・地域医療検討特別委員会から提言、委員会廃止 ○一般会計から長期貸付金 6 億円を借入れ（運転資金確保のため）
令和元年 8 月	○「江別市立病院の役割とあり方を検討する委員会」設置

江別市立病院の沿革⑩病院事業費用収益の推移(平成18年度～平成30年度)

